入学式挙行

青雲臺

花北青雲高校
一学年通信

4月　8日（金）

１学年
大関　直美
宮原　　淳

167名の新入生

希望も新たに

緊張の面持ちで起立する167名の新入生　（写真提供：藤原写真館）

七日(木)本校体育館で、厳かな中、平成二八年度入学式が挙行されました。

新入生は初めてのHRの後、緊張の面持ちで体育館へ入場しました。

国歌斉唱に続き、担任による呼名で全員が元気よく返事をしました。

小原校長先生から入学許可を頂き、式辞では一、元気な挨拶。二、バランスのとれた人間を目指す。三、行動の源である「心」を大切に育てること。の三点をがんばってほしいと話を頂きました。

一年C組の髙橋菜々子さんが新入生を代表し「先輩方が築きあげてきた歴史と伝統を受け継ぎ青雲生の名に恥じず地元に愛されるよう励みます。」と宣誓をしました。

上田市長様のご祝辞を亀澤花巻副市長様が代読し、堀田PTA会長様、藤原同窓会長様よりご祝辞を頂きました。

たくさんの祝電の中から石鳥谷中学校の電文を筒井事務長より紹介されました。

校歌斉唱では　吹奏楽部と応援団、バレーボール部女子、バドミントン部女子、ソフトボール部、野球部の先輩が体育館前に整列して斉唱をアシスト、吹奏楽部の伴奏で初めての校歌斉唱となりました。

新入生退場ではまるでオーケストラと見紛う吹奏楽部のダイナミックな演奏により会場を後にし、HRへと戻りました。

新入生代表で宣誓をする1年B組　髙橋菜々子さん　（写真提供：藤原写真館）

『初心』

入学したての今だからこそやってほしいことがあります。

本校を志望し受験した生徒の中には、力及ばず涙をのんだ生徒がいます。逆を言うと新入生諸君は持てる力を十分に使って合格を勝ち取ったとも言える訳です。

合格発表を見に来た諸君は、自分の受験番号が載っているのをみて心の底から喜んだことでしょう。

そのときの胸の中はどうだったでしょうか？ただ「うれしい」だけでしたか？

「よしっ高校に入ったら〇〇をがんばろう」とか「△△部で活躍するぞっ」とか新しい決意を胸に抱いた人も多かったのではないでしょうか。いわゆる「初心忘るべからず」の初心ですね。

この格言にもあるように「初心」というのは、得てして忘れてしまいがちなので、忘れずにしっかり精進しなさいという世阿弥（室町時代の能楽師）の言葉です。

入学したての生徒諸君は、まさに「初心」を胸に抱いた状態かと思います。

この「初心」を堂々と書ける人は、ぜひ大きく紙に書いて自分の机の前に貼っておいてください。「ちょっと恥ずかしいな」という人は自分の生徒手帳のメモページの最後にでも書き留めておいてください。

これを見れば、くじけそうになったり、あきらめてしまいそうになったときは、「初心」に帰るきっかけになるのではないでしょうか。

合格発表で自分の受験番号を記念に撮影　（写真提供：加藤啓先生）

「青雲臺」の由来

紙名「青雲臺」の由来は花巻北高校の商業科から分離独立し花北商業高校として開校したこの地が以前より「青雲臺」と呼ばれていたことによります。

平成十五年に「工業」「家庭」の学科を加え、総合的専門高校「花北青雲高校」が誕生しました。

校名の由来となった「青雲臺」を紙名として使わせて頂きました。

夏の暑い日には小高い丘の上を吹く風は、部活動で疲れた体を癒し、寒い冬の日に吹く北風は厳しさを教えてくれる人生の師匠のようです。

この小高い「青雲臺」での三年間で自分を磨き上げ将来を豊かなものとしてもらいたいという気持ちから名付けました。